

平成 28 年度 委託研究開発成果報告書

I. 基本情報

- 事業名 : (日本語) 障害者対策総合研究開発事業
(英語) Research and Development Grants for Comprehensive Research for Persons with Disabilities
- 研究開発課題名 : (日本語) 精神医学・救急医学・法医学が連携した危険ドラッグ使用の病態・症状・対応法の開発に関する研究
(英語) Interdisciplinary study on new psychoactive substances-related medical problems across psychiatry, emergency medicine, and forensic medicine
- 研究開発担当者 (日本語) 国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 薬物依存研究部 部長 松本俊彦
- 所属 役職 氏名 : (英語) Toshihiko Matsumoto,
Director, Department of Drug Dependence Research,
National Institute of Mental Health,
National Center of Neurology and Psychiatry
- 実施期間 : 平成 28 年 4 月 1 日 ~ 平成 29 年 3 月 31 日
- 分担研究
開発課題名 : (日本語) 依存症専門医療機関における危険ドラッグ関連障害患者の病態と対応に関する研究
(英語) study on new psychoactive substances-related medical problems in hospitals specialized addiction treatment
- 研究開発分担者 (日本語) 国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 薬物依存研究部 部長 松本俊彦
- 所属 役職 氏名 : (英語) Toshihiko Matsumoto,
Director, Department of Drug Dependence Research,
National Institute of Mental Health,
National Center of Neurology and Psychiatry

分担研究 (日本語) 精神科救急医療機関における危険ドラッグ関連障害患者の病態と対応に関
開発課題名 : する研究
(英 語) A Study on symptoms, treatment and outcomes of the patients with
acute psycho-physical disorders caused by new psychoactive
substances (Kiken drugs) in psychiatric emergency wards

研究開発分担者 (日本語) 千葉県精神科医療センター 名誉病院長 平田豊明
所属 役職 氏名 : (英 語) Toyoaki Hirata,
Honorary President of Chiba Psychiatric Medical Center

分担研究 (日本語) 一般救急医療機関における危険ドラッグ関連生涯患者の病態と対応に関す
開発課題名 : る研究
(英 語) A study on psychoactive substances-related medical problems in
emergency medical facilities

研究開発分担者 (日本語) 埼玉医科大学病院 救急科 教授 上條吉人
所属 役職 氏名 : (英 語) Yoshito Kamiyo,
Professor, department of emergency medicine,
Saitama Medical University Hospital

分担研究 (日本語) 監察医務院における危険ドラッグ関連死の死因究明に関する研究
開発課題名 : (英 語) Investigation of cause-of-deaths related to abuse of “Kiken Drug”, new
psychoactive substances in Tokyo Medical Examiner’s Office

研究開発分担者 (日本語) 東京都監察医務院 院長 福永龍繁
所属 役職 氏名 : (英 語) Tatsushige Fukunaga,
Tokyo Medical Examiner’ s Office, Director

II. 成果の概要（総括研究報告）

- ・ 研究開発代表者による報告の場合

平成 28 年度は、4 つの研究課題について以下の成果を得ることができた。

まず依存症分野の研究では、全国 8 箇所の依存症専門病院で治療を受けた危険ドラッグ関連障害患者の治療転帰を調査し、依存症専門医療機関におけるガイドラインの骨子を開発した。次いで、精神科救急分野の研究では、全国 10 箇所の精神科救急病棟において入院治療が行われた危険ドラッグ関連精神障害者の後方視的個別調査を行い、危険ドラッグをはじめとする物質使用障害による急性精神病状態に対する治療ガイドラインの骨子を作成した。また、一般救急分野の研究では、全国 85 施設の救急医療機関に救急搬送された危険ドラッグ関連障害患者を対象として後方視的調査を行い、一般救急医療現場における危険ドラッグ関連精神障害患者治療ガイドラインの骨子案を開発した。さらに法医学分野の研究では、平成 24～26 年の検案・解剖を行った危険ドラッグ関連死事例の心理社会的特徴を検討するとともに、遺体から検出された使用薬物の調査を行い、検出された成分と剖検所見の特徴を解析した。

In this annual year, we have completed to develop the points of the treatment guidelines for new psychoactive substance (NPS)-related disorder in the addiction, psychiatric emergency, and general emergency field, through reanalysis of the researches on patients with NPS-related disorder, which were conducted in different three fields in last year. The forensic medicine study on the “NPS-related death” has also been continued.

III. 成果の外部への発表

(1) 学会誌・雑誌等における論文一覧（国内誌 15 件、国際誌 3 件）

1. Okumura Y, Shimizu S, Matsumoto T. Prevalence, prescribed quantities, and trajectory of multiple prescriber episodes for benzodiazepines: A 2-year cohort study. *Drug and Alcohol Dependence*. 2016, 158, 118-125.
2. Toshihiko Matsumoto, Hisateru Tachimori, Ayumi Takano, Yuko Tanibuchi, Daisuke Funada, Kiyoshi Wada. Recent changes in the clinical features of patients with new psychoactive-substances-related disorders in Japan: Comparison of the Nationwide Mental Hospital Surveys on Drug-related Psychiatric Disorders undertaken in 2012 and 2014. *Psychiatry and Clinical Neurosciences* .2016, 70(12), 560-566.
3. 谷渕由布子, 松本俊彦, 今村扶美, 若林朝子, 川地拓, 引土絵未, 高野歩, 米澤雅子, 加藤隆, 山田美紗子, 和知彩, 網干舞, 和田清. 薬物使用障害患者に対する SMARPP の効果 : 終了 1 年後の転帰に影響する要因の検討. *日本アルコール・薬物医学会雑誌*. 2016, 51(1), 38-54.
4. 大曲めぐみ, 嶋根卓也, 松本俊彦. 日本の刑事施設における薬物依存離脱指導の評価方法についての文献レビュー. *日本アルコール・薬物医学会雑誌*. 2016, 51(5), 335-347.
5. 松本俊彦. なぜ多剤併用になってしまうのか—精神科医の処方意図. *薬事*. 2016, 58(8), 27-29.
6. 松本俊彦. 危険ドラッグはなぜ「危険」なのか. *神戸市医師会報*. 2016, 640, 38-42.
7. 松本俊彦. 健康問題としての薬物依存症—薬物依存症からの回復のために医療者は何ができるか. *日本医事新報*. 2016, 4808, 19-23.
8. 松本俊彦. 子どもの薬物乱用の現状と予防. *小児科*. 2016, 57(9), 1143-1150.
9. 松本俊彦. 薬物使用障害に対する外来治療プログラム「SMARPP」. *精神療法*. 2016, 42(4), 571-579.
10. 松本俊彦. 物質使用障害における自殺—薬物療法のリスクとベネフィット. *臨床精神薬理*. 2016, 19(8), 1125-1136.
11. 松本俊彦, 今村扶美. ワークショップ 2 : SMARPP の理念と実際—講義とデモセッション—. *日本アルコール関連問題学会雑誌*. 2016, 18(1), 123-125.
12. 谷渕由布子, 松本俊彦. 危険ドラッグ使用者への安全管理. *精神科治療学*. 2016, 31(11), 1449-1454.
13. 松本俊彦. 妊婦の薬物依存. *日産婦医会報*. 2016, 68(11), 10-11.
14. Kamijo Y, Takai M., Fujita Y, Sakamoto T. A multicenter retrospective survey of poisoning after consumption of products containing novel psychoactive substances from 2013 to 2014 in Japan. *American Journal of Drug and Alcohol Abuse*, 2016, 23, 1-7.
15. 上條吉人. 危険ドラッグ中毒にどう対応するか. *内科*. 2016, 116, 1241-1244.
16. 上條吉人. 危険ドラッグ. *日本臨床*. 2016, 74, 241-244.
17. 福永龍繁. 危険ドラッグ関連死から見えてくる有害性・問題点. *危険ドラッグ対応ハンドブック—精神科救急医療ガイドライン追補版* 成瀬暢也, 松本俊彦編集). へるす出版. 2015, 32-35. (共著)

18. 福永龍繁. 東京都監察医務院における異状死例からの報告---危険ドラッグ関連死. 医学のあゆみ. 2015, 254(2), 163-136.

(2) 学会・シンポジウム等における口頭・ポスター発表

1. 危険ドラッグ乱用患者の心理社会的特徴, 口頭, 松本俊彦, 日本学術会議トキシコロジー分科会シンポジウム, 2016/5/17, 国内.
2. トラウマとアディクション, 口頭, 松本俊彦, 第 15 回日本トラウマティック・ストレス学会, 2016/5/20, 国内.
3. 法医学との連携が精神医学を変える～薬物乱用と自殺に関する研究を通じて～, 口頭, 松本俊彦, 第 100 次日本法医学会学術全国集会, 2016/6/17, 国内.
4. 人は何故依存症になり、回復ができるのか?, 口頭, 松本俊彦, 第 38 回日本アルコール関連問題学会秋田大会, 2016/9/10, 国内.
5. 薬物依存症の治療～SMARPP を中心に～, 口頭, 松本俊彦, 第 51 回アルコール・アディクション医学会新学会誕生記念特別研修プログラム, 2016/10/8, 国内.
6. 人はなぜ依存症になるのか?, 口頭, 松本俊彦, 第 51 回日本アルコール・アディクション医学会学術総会, 2016/10/8, 国内.
7. SMARPP の理念と課題—プログラムの「学習」ではなく、支援ネットワークの交差点を目指して, 口頭, 松本俊彦, 第 51 回日本アルコール・アディクション医学会学術総会, 2016/10/8, 国内.
8. よくわかる SMARPP—あなたにも出来る薬物依存者支援, 口頭, 松本俊彦, 集団認知行動療法研究会 第 7 回学術総会, 2016/10/30, 国内.
9. 専門家のいない薬物依存治療—依存症集団療法「SMARPP」, 口頭, 松本俊彦, 第 34 回日本神経治療学会総会, 2016/11/4, 国内.
10. 生き延びるための依存症、生き直すための回復, 口頭, 松本俊彦, 第 23 回関西アルコール関連問題学会滋賀大会, 2016/11/27, 国内.
11. Addiction and Suicide prevention. 口頭, Matsumoto T, 7th Pacific Region Congress, International Association of Suicide Prevention, 2016/5/20, 国内.
12. 日本型治療共同体モデルとしてのエンカウンター・グループの効果とその要因について, 口頭, 引土絵未, 岡崎重人, 加藤 隆, 山本 大, 山崎明義, 松本俊彦, 第 51 回日本アルコール・アディクション医学会学術総会, 2016/10/8, 国内.
13. 依存症の認知行動療法のグループにおける治療要因の測定結果からの考察, 口頭, 近藤千春, 藤城聡, 松本俊彦, 第 51 回日本アルコール・アディクション医学会学術総会, 2016/10/8, 国内.
14. 日本の刑事施設における薬物依存離脱指導の評価方法についての文献レビュー, 口頭, 大曲めぐみ, 嶋根卓也, 松本俊彦, 日本アルコール・アディクション医学会学術総会, 2016/10/7, 国内.
15. 当院における精神科救急入院料病棟で施行可能な依存症治療ツールによる介入実績, 口頭, 花岡晋平, 市川方子, 今井瑞七, 吉越ありさ, 今村幸嗣, 塩沢ゆかり, 佐藤明, 深見悟郎, 成瀬暢也, 平田豊明, 第 24 回精神科救急学会学術総会, 2016/10/7, 国内.

16. 精神科救急入院料病棟における危険ドラッグ関連精神障害ケース対応の実態，口頭，花岡晋平，谷渕由布子，平田豊明，第 24 回精神科救急学会学術総会，2016/10/7，国内.
17. Therapeutic effect of a brief prevention program for drug addiction at a psychiatric emergency ward, 口頭，S. Hanaoka, Y. Tanibuchi, and T. Hirata , the 24th annual meeting of Japanese association for emergency psychiatry, 2016, 国内.
18. Survey of the Kiken drugs rrelated psychiatric disorder in psychiatric emergency wards in Japan. (an interim report), 口頭，S. Hanaoka, N. Naruse and T. Hirata , the 24th annual meeting of Japanese association for emergency psychiatry, 2016, 国内.
19. 危険ドラッグはどうなったのか？振り返り，口頭，上條吉人，第 38 回日本中毒学会総会・学術集会，2016/7/23，国内.
20. 危険ドラッグなどの乱用薬急性中毒の治療，口頭，上條吉人，鈴木善樹，芳澤朋大，フォーラム 2016 衛生薬学・環境トキシコロジー，2-16，2016/9/11，国内.
21. 急性危険ドラッグ中毒の現状：合成薬物からカフェインまで，口頭，上條吉人，第 44 回日本集中治療学会，2017/3/11，国内.
22. 監察医務院からみた致死薬物の実態，口頭，福永龍繁，第 51 回アルコール・アディクション医学会学術総会（シンポジウム 14 処方薬依存の実態と作用機序），2016/10/8，国内.
23. 東京都監察医務院取扱い事例にみられた致死過量服薬，口頭，福永龍繁，第 29 回日本総合病院精神医学会学術総会 シンポジウム「急性バルビツール酸系睡眠薬はいまだに必要か？」，2016/11/25，国内.

(3) 「国民との科学・技術対話社会」に対する取り組み
なし

(4) 特許出願